

平成27年岡山市産業連関表からみた岡山市経済の概要

規模

- ・供給面からみると、平成27年1年間における財・サービスの総供給額は6兆3,839億円。このうち、市内生産額は4兆7,640億円で、市外からの供給である移輸入額は1兆6,199億円。市内生産額のうち、生産活動に必要な原材料等にあたる中間投入額が約1兆9,697億円、雇用者所得・営業余剰等の粗付加価値額が約2兆7,942億円。
- ・需要面からみると、財・サービスの総需要額は、6兆3,839億円（＝総供給額）であり、このうち、約1兆9,697億円は、市内産業が原材料等として消費した中間需要額（＝中間投入額）となっている。最終需要額は4兆4,141億円であり、家計や政府の消費支出・投資あるいは市外への移輸出に向けられた。

生産額の産業別構成比

- ・生産額の産業別構成を13部門でみると、サービス業が1兆3,621億円（構成比28.6%）と最も高く、次いで製造業1兆527億円が（同22.1%）と続いている。
- ・全国の構成比と比較すると、製造業（全国構成比29.8%）が7.7ポイント低い一方、サービス業（同24.6%）では4.0ポイント高く、商業（同9.4%）でも2.8ポイント高く、商業・サービスに特化した経済構造であることがわかる。

投入構造

市内生産額4兆7,640億円は、生産に必要な原材料・燃料等の中間投入と雇用者所得や営業余剰等を内容とする粗付加価値からなる。

●中間投入と粗付加価値

中間投入額は1兆9,697億円で、市内生産額に対する中間投入率は41.3%である。
粗付加価値額は2兆7,942億円で、市内生産額に対する粗付加価値率は58.7%である。粗付加価値額の内訳は雇用者所得が1兆3,667億円（粗付加価値額における構成比48.9%）、営業余剰が6,357億円（同22.8%）等となっている。

需要構造

需要構造を見ると、部門別の販路構成（各部門の生産物がどの産業にどれだけ原材料等として需要されたか、あるいは消費・投資等にどのように需要されたか）がわかる。

●総需要

市内需要と移輸出を合わせた総需要は6兆3,839億円で、そのうち、中間需要は1兆9,697億円（総需要に対する構成比30.9%）であり、市内最終需要は2兆8,404億円（同44.5%）、移輸出は1兆5,738億円（同24.7%）であった。

●最終需要

最終需要は4兆4,141億円で、そのうち移輸出が1兆5,738億円（最終需要に対する構成比35.7%）であり、市内最終需要は2兆8,404億円（同64.3%）となっている。

域際収支（移輸出額から移輸入額を差し引いたもの）

市内生産物の全てが市内で需要されるのではなく、一部は市外・国外へ移輸出される。また、市内需要の全てが市内生産物で賄われるのではなく、一部は市外・国外からの移輸入に頼っている。移輸出から移輸入の絶対値を引き算した金額が域際収支となり、この金額が大きいほど市外から外貨を獲得する産業として位置づけすることができる。

域際収支を13部門で見ると、サービス業では1,206億円、商業では771億円（域内へ所得が流入）のプラスとなっている一方、製造業では1,848億円のマイナス（域外へ所得が流出）となっている。